

—長野市—

## 誰もが使いやすい道路空間を構築する

### 1. はじめに

平成31年に長野市役所に入庁し、都市政策課に配属されて3年目を迎えた。現在は、都市計画関連の申請・届出の審査、区域区分（線引き）の見直し、都市計画道路中央通り（以下、中央通り）の歩行者優先道路化事業に関する業務等を担当している。本稿では、現在担当している業務の中から、中央通りの歩行者優先道路化事業について、日々の業務を通じて感じることをお話したい。

### 2. 中央通りの歩行者優先道路化事業

中央通りは長野市中心市街地に位置し、長野駅から善光寺までを結ぶ延長約1.6kmの路線である。歩行者優先道路化事業は、善光寺表参道としての魅力向上と機能充実を図り、まちなかの回遊性を向上させることで、中心市街地の活性化を目指すものである。平成14年から整備に向けた検討が開始され、計7回の社会実験を経て平成27年に第一期計画区間（L=700m）の事業が完了し、歩道の拡幅、車道の美装化、植栽帯の再整備、可動式ボラード・休憩施設の設置等が行われた。その後、第一期整備区間の効果検証が行われ、現在は第二期計画区間（L=900m）の整備に向けて、地元調整や関連計画の策定を行っている。



歩行者優先道路化事業前後の様子

### 3. 業務を通じて感じること

業務を通じて一番感じることは「誰もが使いやすい道路空間を構築することの難しさ」である。例えば、善光寺表参道として歩行の快適性を向上させるために歩道の拡幅を重視すると、車道幅員が狭くなり、沿道の商業施設の荷下ろしが難しくなることや、自転車利用者が車道を通らず歩道を錯綜することで、歩行者とぶつかる可能性が高くなるなどの影響が考えられる。また、ベンチ等の休憩施設も、設置場所、向き、設置数等をよく検討しないと、歩行者が利用しないだけでなく、かえって歩行の妨げになってしまう可能性がある。「歩行者優先道路化事業」という名称ではあるが、中央通りは観光客だけでなく地元の方々の自転車利用や自動車交通量も多いため、誰もが使いやすい道路空間を構築する必要がある。

近年、ウォークアブルなまちづくりの推進に伴い、滞在環境や景観の向上が重要視されている。第二期計画区間の整備では、商業施設などの既存ストックを最大限活かし、中心市街地の回遊の拠点となるような道路空間づくりや、路線全体として統一感のある景観デザインが必要であると感じる。

### 4. おわりに

入庁してから3年間都市計画業務に携わり、物事を多角的な視点で考える重要性を学んだ。今後、土木技師として様々な業務に携わる中で培う知識・経験を大切にして、多角的な視点をもって業務に取り組んでいきたい。また、地元である長野市がより魅力のある都市として発展していくための一助となれるように尽力していきたい。



職場にて

長野市 都市整備部 都市政策課 技師 なかざわ たいき 中澤 大輝